

日本語学習用Web教材制作のための基礎研究

－日本の歌(童謡・唱歌等)の選定と分類－

濱田美和

要 旨

筆者は日本の童謡、唱歌などを用いたWeb教材の制作を行っているが、Web教材化するにあたってまず考えなければならないのは、どういう歌を選定するかである。筆者は、多くの日本人が知っている歌ということを選定の条件とし、これを調べるためにアンケート調査を実施した。その結果、明らかに知名度についての差が見られた。そこで、知名度の高さと、Web化する際に問題となる著作権の問題をクリアした歌56曲について、日本語学習と関連づけた分類を行うため、歌詞に使われている語彙及び文型の難易度を調べ、56曲を初級、中級、上級、超上級レベルに四分類した。また、歌詞に使われている日本語の特徴として、動植物のことは、擬声語・擬態語、口語的表現、幼児語、雅語、文語が多く出てくること、一つの歌に同じ文型が多用されることなどが明らかになった。

【キーワード】 Web教材、歌の知名度、歌詞、語彙レベル、文法・文型レベル

1 はじめに

近年インターネットの普及に伴い、日本語・日本事情教育についても新たな可能性がでてきた。インターネットでの学習の利点として、好きな時間に、好きな場所で学べるということがまず挙げられるが、教室での学習と違って、学習者一人一人の興味に応じた内容を選択できることも大きな利点であろう。

筆者は、現在、日本語学習者が日本の童謡、唱歌、わらべ歌、民謡などの日本人に広く親しまれている歌を学ぶことができるWeb教材の開発に取り組んでいる。外国語の学習ではその国の歌も教材として使用されるが、教室の活動の中で取り上げる機会は少ない。これには時間的な制約と、人前で歌うのが苦手な教師、学習者がいることが理由として考えられる。ただ、人前で歌うのが苦手であっても、歌を聞いたり一人で歌ったりするのは好きだという学習者も多く、メロディーがついた歌詞は、記憶しやすい。歌は教室の活動では扱うのが難しいが、「娯楽的視聴」⁽¹⁾用には大変効果的な素材であると思われる。そこで、歌を使った独習用のWeb教材を作ることにした。既に、日本の童謡、唱歌などを扱ったWebサイトはいくつか開設されており、歌詞とメロディーを確認できる。中には、難しい漢字の読み方や難解な語の意味を書いているものもある。しかしながら、これらは基本的に、その童謡、唱歌を知っている日本人を対象として作られたものであるため、初めてその歌を聴く日本語学習者の独習用教材としては不向きである。まず、音楽的な側面から見ると、一度も聴いたことがない歌を歌う場合は少なくとも譜面が必要であり、できることなら誰かが実際に歌っているのを聴くのが最も効果的である。次に、日本語学習の側面から見ると、歌詞の日本語についての語彙的、文法的な説明があること、そして、日本語の難易度により歌が分類されていることが望まれる。筆者は、2004年の開設を目指して、これらを備えたWeb教材の開発を進めている。

本稿では、このうち後者の日本語の側面から見た場合の、日本語の難易度による歌の分類について、その方法と分析結果を述べたい。

2 知名度の高さによる選定(アンケート調査)

日本の童謡、唱歌、わらべ歌、民謡などを取り上げることにした理由は、日本人の間で長い年月歌い

継がれてきたものであり、子供からお年寄りまで幅広い年代の人が知っていて、日本文化の理解にも役立つと考えられたことと、曲の長さが短い歌が多いので、ファイルの容量を考慮する必要があるWeb教材に適していること、そして、3で詳しく述べるが、著作権が切れている歌が多いことが挙げられる。これらの理由で、日本の童謡、唱歌を中心にWeb教材に使う歌の選定を行うことにしたが、実際に調べ始めたところ、童謡、唱歌と言われる歌はかなりの数に上ることがわかった。たとえば、『日本童謡集』には312曲、『日本唱歌集』には152曲収録されており、筆者が知らない歌も数多く含まれている。日本人にもあまり知られていない歌を教材として取り上げるのは、日本語学習用の教材としては不適切であると考えられるので、どのぐらいの人に知られている歌かを調べるため、アンケート調査を行うことにした。

2.1 アンケートの内容

多くの人を対象としたアンケート調査を行うには、質問項目が多すぎでは難しいため、まず、アンケート調査で質問する歌の数を絞り込む作業から始めた。その方法は、『日本童謡集』、『日本唱歌集』、『日本の詩歌』、『童謡・唱歌の世界』と、2002年度に小中学校で採用されている音楽の教科書『新しい音楽』1～6、『小学生の音楽』1～6、『中学生の音楽』1～3に掲載されている歌の中から、複数の本に掲載されている歌と筆者自身がよく知っている歌183曲を選び出し、これらの歌についてアンケート調査を行うことにした。

配布したアンケート用紙は、最初に回答者の性別、年齢（10代～80代以上）、出身地（都道府県別）についての質問を行ってから、図1のように183曲の歌の曲名と歌い出しを書き、知っている歌にチェックを入れてもらい、最後に183曲以外に子供の頃よく歌った曲があれば曲名を記入してもらうという形式のものを作成した。アンケート調査は2002年7月中旬に開始したのだが、初期の時点で183曲以外によく歌った歌として「大きな古時計」と「花一匁」が記入されており、いずれも知名度が高い歌だと予想されたため、途中からこの2曲を加え、8月以降の調査では185曲に曲数を増やした。

<input type="checkbox"/> アイアイ	あーいあい あーいあい おさるさんだよ
<input type="checkbox"/> 青い目のお人形	青い目をしたお人形は アメリカ生まれの セルロイド
<input type="checkbox"/> あおげば尊し	あおげば とうとし、わが師の恩。
<input type="checkbox"/> 赤い靴	赤い靴 はいてた 女の子 異人さんに つれられて
<input type="checkbox"/> 赤い鳥小鳥	赤い鳥、小鳥、なぜなぜ赤い。赤い実をたべた。
<input type="checkbox"/> 赤い帽子白い帽子	赤い帽子白い帽子 仲よしさん いつも通るよ 女の子
<input type="checkbox"/> 赤とんぼ	夕やけ、こやけのあかとんぼ おわれて見たのは いつの日か

図1 アンケート用紙（一部）

2.2 調査結果

調査は2002年7月に開始し、2003年2月現在、140人（10代17人、20代40人、30代26人、40代16人、50代21人、60代8人、70代7人、80代以上5人）から回答を得た。^② 185曲について知名度の高い順に並べたのが表1である。「大きな古時計」と「花一匁」については、119人中の人数である。

表1からわかるように、140人全員が知っている歌から1人も知らない歌まで、歌の知名度の高低は明確に現れている。そこで、Web教材に取り上げる歌を選ぶ基準の一つとして、知名度の高低を取り入れ、表1の知名度の高い歌から順に選ぶことにした。

表1 童謡・唱歌・わらべ歌・民謡等の知名度についてのアンケート調査結果

曲名	-人	曲名	-人	曲名	-人
1. お正月	140	41. もりのくまさん	128	81. どじょっこふなっこ	95
2. むすんでひらいて*	140	42. 浦島太郎*	127	82. 月の砂漠	94
3. 赤とんぼ	139	43. われは海の子*	127	83. こきりこ節*	93
4. かごめかごめ*	139	44. アイアイ	126	84. 箱根八里*	92
5. 君が代*	139	45. うさぎ*	126	85. はなさかじじい*	90
6. チューリップ	139	46. 七つの子*	126	86. 開いた開いた*	88
7. どんぐりころころ	139	47. きんたろう*	125	87. 黒田節*	87
8. 春が来た*	139	48. さくら*	124	88. 汽車	86
9. うさぎとかめ*	138	49. 夏の思い出	124	89. 日の丸の旗*	85
10. うみ	138	50. ホーホー螢こい*	124	90. 村祭*	85
11. おもちゃのチャチャチャ	138	51. 汽車ポッポ	122	91. 青い目の人形*	84
12. こいのぼり*	137	52. 虫のこえ*	122	92. 山寺の和尚さん(*)	84
13. 蝶々*	137	53. 花一匁*	120	93. ふじの山*	83
14. あおげば尊し*	136	54. かもめの水兵さん*	118	94. ないしょ話	81
15. あめふり*	136	55. 春の小川*	118	95. ゆりかごのうた*	81
16. かたつむり*	136	56. 荒城の月	117	96. 浜辺の歌*	80
17. しゃぼん玉*	136	57. 茶摘*	117	97. どこかで春が	78
18. てるてる坊主	136	58. 子守歌	113	98. 野なかの薔薇	78
19. 通リゃんせ*	136	59. 雀の学校*	113	99. ペチカ	78
20. あんたがたどこさ*	135	60. きらきらぼし	112	100. あの子はたあれ	76
21. 肩たたき	135	61. ツキ*	112	101. 雨降りお月さん	76
22. ずいずいずっころばし*	135	62. 紅葉*	110	102. 鯉のぼり	76
23. ソーラン節*	135	63. 江戸子守唄*	109	103. 椰子の実	75
24. 小さい秋みつけた	135	64. 大きな古時計	109	104. 鞠と殿さま	74
25. めだかの学校	135	65. 黄金虫*	107	105. 里の秋	73
26. 桃太郎*	135	66. 待ちぼうけ	106	106. 五木の子守唄	72
27. 赤い靴*	134	67. 夕日	106	107. グッド・バイ	70
28. 母さんの歌	134	68. 一月一日*	103	108. 花嫁人形	70
29. 手のひらを太陽に	134	69. 雪の降るまちを	103	109. サンタルチア	68
30. 雪*	134	70. 証城寺の狸囃子*	102	110. 村の鍛冶屋	68
31. ぶんぶんぶん	133	71. みかんの花さく丘	102	111. 海	66
32. 鳩*	132	72. 朧月夜*	101	112. かなりや	66
33. 螢の光*	132	73. まっかな秋	101	113. 叱られて	66
34. 花	131	74. 靴が鳴る*	100	114. 仲よし小道	66
35. ばらが咲いた	131	75. 背くらべ*	100	115. からたちの花	65
36. 春よ来い*	130	76. 兎のダンス*	99	116. 旅愁	64
37. 夕焼小焼	129	77. この道	99	117. 赤い鳥小鳥	63
38. おうま	129	78. ドナドナ	97	118. 夏は来ぬ	63
39. たきび	129	79. おもちゃのマーチ	96	119. 雨	62
40. 故郷*	129	80. かくれんぼ	95	120. かかし	62

表1 童謡・唱歌・わらべ歌・民謡等の知名度についてのアンケート調査結果

曲名	-人	曲名	-人	曲名	-人
121. あの町この町	61	146. 七里ヶ浜の哀歌	35	171. おおえやま	5
122. 牛若丸	59	147. お山のお猿	31	172. カッコ鳥	5
123. 十五夜お月さん	59	148. さるかに	31	173. 木の葉のお船	5
124. 砂山	59	149. 霞か雲か	29	174. 朝日は昇りぬ	4
125. とんがり帽子	58	150. 冬の夜	28	175. つくしんぼ	4
126. ももたろう	58	151. 庭の千草	25	176. 那須与一	4
127. 故郷の人々	56	152. 港	25	177. 木の葉	3
128. ローレライ	55	153. 故郷の廃家	23	178. 大漁	3
129. 早春賦	53	154. 鎌倉	22	179. 四丁目の犬	2
130. 早起き時計	53	155. 美しき天然	21	180. 遠足	1
131. めえめえ兎山羊	53	156. 越天楽今様	20	181. 漁業の歌	1
132. 一寸法師	52	157. 花の街	19	182. 滝	1
133. 故郷の空	52	158. 静かにねむれ	18	183. 動物園	1
134. 人形	51	159. 五十音	17	184. 鳥籠	1
135. 牧場の朝	51	160. 燈台守	17	185. あわれの少女	0
136. 冬景色	49	161. 故郷を離るる歌	14		
137. 赤い帽子白い帽子	48	162. 菊の花	12		
138. とんび	46	163. ちんちん千鳥	11		
139. 埴生の宿	41	164. かやの木山の	10		
140. 浜千鳥	41	165. スキーの歌	10		
141. こうま	40	166. とけいのうた	10		
142. 池の鯉	39	167. あした	7		
143. あわて床屋	38	168. すかんぼの咲く頃	7		
144. 俵はごろごろ	38	169. おつきさま	6		
145. 大こくさま	37	170. 犬	5		

3 著作権の問題

Web上に、楽曲、歌詞を掲載する場合は、著作権が関わってくる。ただし、作曲家、作詞家の没後50年が経過した歌については、著作権が消滅する。^③ 著作権料を支払えば、2.2で知名度により選定した歌のほとんどはWebでの公開が可能となるが、著作権料は毎年定期的に支払いを続けなければならないので、長期間Web上に掲載することを考えると、著作権が関係しない歌のほうがよい。そこで、知名度の高さの他に、著作権が切れた歌という条件を加えることにした。社団法人日本音楽著作権協会「JASRAC」のサイト (<http://www.jasrac.or.jp/>) にある作品データベース検索「J-WID」を利用して、表1で80人以上が知っている歌(表1の「96.浜辺の歌」まで)について、著作権が消滅しているかどうかを検索した結果、2003年2月現在56曲(表1で曲名の最後に*がついた歌)が楽曲、歌詞ともに著作権が消滅していることがわかった。そこで、これら56曲について、歌詞の日本語の難易度を調べることにした。なお、表1の「92.山寺の和尚さん」については、作詞、作曲者の著作権は消滅しているが、編曲者の著作権が残っており、多くの人が親しんでいるのは編曲されたほうのメロディーであると考えられるので、除外した。

4 歌詞の日本語の難易度による分類

歌詞の日本語の難易度による分類を行う場合、語彙のレベルと文法・文型レベルの二つの側面から考える必要がある。そこで、以下4.1でまず歌詞に使われている語彙のレベルから初級、中級、上級、超上級者向けの歌に分類したあと、4.2でそれらが文法・文型レベルからもそのレベルに適切な歌かどうかを見ていく。

4.1 語彙レベルによる分類

3 で見た著作権が消滅した56曲の歌詞に使われている日本語について、『改訂 品詞別・A～Dレベル別1万語語彙分類集』(以下、『1万語語彙分類集』と呼ぶ)を用い、語のレベル判定を行った結果を4.1で述べる。『1万語語彙分類集』は、「日本語教育の現場で必要とされる基本語彙を特に出題⁽⁴⁾の観点から選定した」(p.6)のものであり、レベルA～Dは次のように設定されている。

レベルA：日本語を勉強し始めてほぼ1年(学習時間1000時間程度)を経過した人の相当部分が到達しているであろう学習レベルで、中級後期から上級の学習者、並びに大学・大学院受験および日本語能力試験1級を目指す学習者を想定。

レベルB：日本語を勉強し始めてから、6か月以上1年未満(学習時間700～800時間)の人の相当部分が到達しているであろう学習レベルで、将来、大学、あるいは専門学校に進学することを前提に学んでいて、日本語能力試験2級を目指す学習者を想定。

レベルC：日本語を勉強し始めてから3か月以上6か月未満(学習時間400～500時間)の人の相当部分が到達しているであろう学習レベルで、日本語能力試験3級を目指す学習者を想定。

レベルD：日本語を勉強し始めてから1か月以上3か月未満(学習時間100～300時間)の人の相当部分が到達しているであろう学習レベルで、日本語能力試験4級を目指す学習者を想定。(p.6)

56曲の歌詞に使われている各語について、レベルA～Dのどのレベルかを調べることにより、初級レベルの学習者にも理解しやすい歌か、中級レベルに達すれば理解できる歌か、上級レベルに達しないと理解が難しい歌か、上級レベルに達しても理解が難しい歌かに四分類できると考え、56曲の歌詞に出てくる語彙をデータベース化することにした。

4.1.1 レベル判定の方法

語のレベル判定は次の通りに行った。

- (1) 動詞、形容詞の活用形は「辞書形」で調べ、レベル判定を行った。
- (2) 「なりて」「掘ったれば」「青き」「深し」のように文語の活用形で現れる語についても、「なる」「掘る」「青い」「深い」でレベル判定を行った。(これらは、4.2の文法・文型レベルの判定の際、文語の活用形式として分類を行う。)
- (3) 「まばたきする」のようなスル動詞の「する」はカウントしなかった。
- (4) 助詞、助動詞はカウントしなかった。(『1万語語彙分類集』でも対象外となっている。)
- (5) 『1万語語彙分類集』に掲載され、レベル判定がなされている語でも、たとえば「箱根八里」の歌詞にある「万夫開くなし」の「開く」のように、原義ではなく派生的あるいは比喩的な意味と見なされるものは、「記載なし」とした。
- (6) 漢字レベルについては、Web教材化する際に、楽譜につける歌詞はすべて平仮名で記載する予定なので、本研究では取り上げない。また、歌詞の日本語では、「路」という漢字で「みち」と読ませたりすることがよくあるが、この場合も読みのほうを重視して、「道(みち)」でレベル判定を行った。⁽⁵⁾
- (7) 複合語については、「この1万語に収録されてはいなくても、例えば、ガラス(C)と戸(D)の複合語であるガラス戸のレベルは、『少なくともC以上であり、意味がさらに限定されるのでB辺りにすれば

よい』ということになります。実際、旧版のガラス戸(B)は、類推可能であるとして、改訂版には収録しませんでした。このような考えに基づいて本書をご利用いただければ、潜在的に使用可能な語彙はかなりの数にのぼるでしょう」(『1万語語彙分類集』p.10)とあることから、複合語を構成している語の意味からの類推が容易な複合語については、「ガラス戸」と同じ方法でレベル判定を行うことにした。

- (8) 『1万語語彙分類集』においてレベル判定が行われていない語のうち、日本語能力試験においてレベル判定が行われている語については、日本語能力試験1級の語をレベルA、2級の語をレベルB、3級の語をレベルC、4級の語をレベルDと見なし、カウントした。⁽⁶⁾

4.1.2 語彙レベルによる分類基準

4.1.1の(1)～(8)により、56曲の歌詞に使われている語彙のレベル判定を行い、それらをデータベース化した。そして、作成したデータベースをもとに、各曲の歌詞に使われている語彙の未習語の数と、語の総数(いずれも異なり語数による)の中での既習語の割合を算出した。これは、娯楽的視聴の一環としての独習教材を開発する場合、未習語が少なく、既習語が多く用いられていることが望ましいと考えたからである。

未習語の数はもちろん少なければ少ないほどいいが、初級、中級、上級レベル向けという分類を行うためには、基準を設けなければならない。そこで、未習語の数を7語以下に設定し、分類を行うことにした。これは、56曲をある程度均等に振り分けるために便宜的に設けた基準であるが、筆者のこれまでの日本語教育の経験から見て、それほど無理のない語数ではないかと考えている。ただ、歌詞の語彙の特徴として、同じフレーズの繰り返しがよく用いられ、異なり語数で見た場合、総語数自体が非常に少ない歌がある。さらに、童謡、唱歌、古謡の場合は、曲の長さも短く、8小節で終わるようなものもある。たとえば、「むすんでひらいて」は総語数が7語である。未習語が7語以下であったとしても、総語数自体が非常に少ない歌の場合、歌詞の語彙の大半が未習語になってしまう可能性がある。既習語がある程度含まれていないと学習意欲が削がれる可能性があるため、未習語数7語以下という基準に加えて、未習語数が総語数の半分以上という基準を設けることにした。⁽⁷⁾

4.1.3 語彙レベルによる分類結果

以下、4.1.2の基準により56曲を分類していく。まず、初級レベルの学習者に適した歌の選定であるが、未習語の数(すなわち、D・Cレベル以外の語数)が7語以下、D・Cレベルの語が含まれる割合が半分(50%)以上という基準により選定した歌が表2である。表2は、D・Cレベルの語の割合が高い歌から順に並べてある。

表2 初級レベルの学習者に適した歌

曲名	未習語/ 総語数	Dレベルの 語の割合	D・Cレベルの 語の割合	D～Bレベルの 語の割合	D～Aレベルの 語の割合
1. 春が来た	1/9	78%	89%	89%	89%
2. しゃぼん玉	1/9	56%	89%	89%	89%
3. むすんでひらいて	1/7	57%	86%	100%	100%
4. 七つの子	3/16	50%	81%	88%	94%
5. 赤い靴	5/23	61%	78%	87%	87%
6. 花一匁	4/17	41%	76%	94%	94%
7. こいのぼり	3/12	58%	75%	75%	75%

8. ホーホー螢こい	4/13	46%	69%	77%	85%
9. ツキ	4/12	25%	67%	92%	100%
10. 雀の学校	6/17	53%	65%	82%	88%
11. 蝶々	3/ 8	38%	63%	88%	88%
12. うさぎ	3/ 7	43%	57%	86%	86%
13. 開いた開いた	3/ 7	29%	57%	71%	71%
14. 鳩	7/15	40%	53%	87%	87%
15. 一月一日	7/15	27%	53%	80%	80%
16. かごめかごめ	7/14	43%	50%	79%	86%

次に中級レベルの学習者に適した歌の選定であるが、未習語の数（すなわち、D・C・Bレベル以外の語数）が7語以下、D・C・Bレベルの語が含まれる割合が半分（50%）以上という基準により選定した歌が表3である。表3は、D～Bレベルの語の割合が高い歌から順に並べてある。

表3 中級レベルの学習者に適した歌

曲 名	未習語/ 総語数	Dレベルの 語の割合	D・Cレベルの 語の割合	D～Bレベルの 語の割合	D～Aレベルの 語の割合
17. 青い目の人形	2/28	39%	68%	93%	93%
18. 日の丸の旗	1/11	27%	45%	91%	91%
19. ふじの山	3/26	46%	62%	88%	96%
20. 通りゃんせ	3/25	28%	68%	88%	88%
21. 雪	4/25	32%	64%	84%	88%
22. 靴が鳴る	4/23	48%	61%	83%	87%
23. かもめの水兵さん	4/19	42%	53%	79%	84%
24. 春よ来い	5/22	55%	64%	77%	77%
25. 春の小川	6/25	36%	48%	76%	84%
26. 浜辺の歌	6/21	24%	52%	71%	81%
27. ゆりかごの歌	5/16	31%	50%	69%	75%
28. 黄金虫	4/12	8%	50%	67%	75%
29. 兎のダンス	5/15	20%	40%	67%	73%
30. 江戸子守唄	7/18	33%	56%	61%	67%
31. さくら	7/17	18%	35%	59%	71%
32. 証城寺の狸囃子	7/16	31%	44%	56%	63%
33. かたつむり	5/11	36%	36%	55%	64%

それから、上級レベルの学習者に適した歌の選定であるが、未習語の数（D～Aレベル以外の語数、すなわち、『1万語語彙分類集』に記載されていない語数）が7語以下、D～Aレベルの語が含まれる割合が半分（50%）以上という基準により選定した歌が表4である。表4は、D～Aレベルの語の割合が高い歌から順に並べてある。

表4 上級レベルの学習者に適した歌

曲 名	未習語/ 総語数	Dレベルの 語の割合	D・Cレベルの 語の割合	D～Bレベルの 語の割合	D～Aレベルの 語の割合
34. 背くらべ	4/39	46%	72%	79%	90%
35. うさぎとかめ	6/46	33%	52%	83%	87%

36. 故郷	4/31	35%	48%	74%	87%
37. あめふり	6/34	38%	65%	76%	82%
38. 螢の光	6/29	24%	41%	72%	79%
39. 紅葉	7/32	25%	38%	69%	78%
40. 村祭	7/30	20%	43%	67%	77%
41. ずいずいずっころばし	7/26	23%	35%	69%	73%
42. 茶摘	7/26	23%	38%	62%	73%
43. きんたろう	5/17	12%	18%	53%	71%
44. あんたがたどこさ	7/19	21%	47%	58%	63%

それから、残りの12曲は『1万語語彙分類集』に掲載されていない語の数が、8語以上ある歌、もしくは総語数に占める割合が半分（50%）を超えた歌である。表5は、『1万語語彙分類集』に掲載されていない語、すなわち上級レベルにおける未習語数が少ない順に並べてある。

表5 『1万語語彙分類集』に未掲載の語数が8語以上もしくは総語数の半数以上ある歌

曲名	未習語/ 総語数	Dレベルの 語の割合	D・Cレベルの 語の割合	D～Bレベルの 語の割合	D～Aレベルの 語の割合
45. 君が代	7/8	13%	13%	13%	13%
46. あおげば尊し	9/31	19%	32%	58%	71%
47. はなさかじい	10/37	19%	38%	57%	73%
48. こきりこ節	10/31	26%	52%	68%	68%
49. 浦島太郎	11/64	27%	53%	80%	83%
50. 桃太郎	11/39	26%	46%	64%	72%
51. 虫のこえ	12/22	18%	36%	45%	45%
52. 朧月夜	13/31	19%	35%	42%	58%
53. ソーラン節	14/31	32%	35%	52%	55%
54. われは海の子	14/42	29%	38%	55%	67%
55. 黒田節	19/47	23%	30%	45%	60%
56. 箱根八里	32/59	14%	22%	39%	46%

『1万語語彙分類集』では、「人名、地名などの固有名詞はこの1万語五十音順原票からは削除しました」(p.6)とあるように、人名と地名は扱われていない。また、「ここに収録されていない動植物、生活必需品、人名、地名などの固有名詞などの大多数は適宜テキストに応じて（特殊なものは註カルビなどを付し）使用しています」(p.10)とあるように、動植物、生活必需品などの掲載率が低い。よって、表5の12曲について、『1万語語彙分類集』に未掲載の語と言っても、その内容はかなり異なることが予想される。実際にデータベースの中の未掲載語には、「かたつむり」「かなりや」「かもめ」「こおろぎ」「狸」「めだか」などの動物、「楓」「すみれ」「菜の花」「びわ」「れんげ」などの植物、「きんたろう」「ぼち」「みいちゃん」などの人あるいは動物の名前、「熊本」「箱根」「横浜」などの地名が多く含まれている。生活必需品の語彙については、童謡、唱歌等の歌詞に出てくるものは、「笠」「小判」「じゃのめ」「俵」「鼻緒」「まさかり」「槍」などの一昔前の日本で使用されていたものが中心である。

この他に童謡、唱歌等の歌詞における未掲載語の特徴として、「あんた」「おいら」「こころ」「そりゃ」「そんなら」「ちょっと」「も一度」などの口語的表現、「おつむ」「お手々」「おんも」「ねんね」などの幼児語、「グーグー」「ざくざく」「ずんずん」「チャップチャップ」などの擬声語・擬態語、「ドッコイショ」「ハー」「ハッケヨイノコッタ」「ホー」などの掛け声、「蛙（かわず）」「ちよろず」「武士（もののふ）」「四方（よも）」「夜半（よわ）」などの雅語、「いみじ」「互（かた）みに」「さながら」「疾（と）

し」などの文語が多く出てくることが指摘できる。また、民謡については方言も出てくる。雅語、文語、方言は、動植物のことは、口語的表現、擬声語・擬態語、掛け声などと比べると、難易度が高く、日本語母語話者でも、辞書を引いて初めて意味がわかるという語も多いと思われる。

したがって、未掲載語についてはその数だけでなく、その中身も考慮する必要がある。たとえば、表5の歌の中で、「虫のこえ」は、未掲載語12語のうち、5語が「こおろぎ」「鈴虫」などの虫の名称で、5語が「ガチャガチャ」「スイッチン」「リンリンリンリン」などの虫の鳴き声を表す語であり、これらの語の意味がわかりさえすれば、歌詞全体の内容把握はそれほど難しくない。一方、「箱根八里」は、未掲載語数そのものも32語と非常に多く、しかも、それらの大半は「剛毅」「小径」「羊腸」などの非常に難解な漢語で、「斯く」「武士（もののふ）」などの雅語も混じり、日本人にとっても歌詞全体の内容把握は難しい歌である。「黒田節」についても同様で、未掲載語の大半は「あけぼの」「爪音」「山辺」「四方（よも）」などの難解な名詞が占める。「箱根八里」「黒田節」は未掲載語数が極端に多く、さらに両者ともに表1で示した知名度もそれほど高くないため、これらを教材として取り上げるべきか検討が必要である。

4.2 文法・文型レベルによる分類

4.2では、4.1で分類した歌を文法・文型レベルの観点からそのレベルに適した歌かどうかを見ていく。文法・文型レベルの判定には『日本語能力試験出題基準』を使用した。ただし、『日本語能力試験出題基準』では、文型（構文）レベルの判定は3・4級レベルでは明確に基準が示されているが、1・2級レベルではまだ十分な研究が行われていないことを理由に、取り上げられておらず、1・2級レベルについては「文法的な<機能語>の類」が中心となっている。さらに、その「文法的な<機能語>の類」についても、「相当多くの例を示しはするが、もとより網羅的なものをめざすものではなく、あくまでも1級・2級のおよそのレベルを示すためのサンプルとして提示するものである」（『日本語能力試験出題基準』p.155）と述べられているように、サンプルの提示に止まっているので、中上級レベルのテキストにおいてよく提出されるもので、『日本語能力試験出題基準』に記載されていないという形式が多くある。『日本語能力試験出題基準』に掲載されていない形式について、どのように扱うかは今後の課題とし、本稿では『日本語能力試験出題基準』の他に『日本語文型辞典』に掲載されているかどうかということも判定材料として、文法・文型レベルからの分析は主に3・4級レベル、すなわち初級レベル範囲内であるかどうかという観点から行うことにする。また、語彙と同様、文語が関わってくる歌があるため、文語文法を含むかどうかについても見ておきたい。

4.2.1 レベル判定の方法

文法・文型レベル判定は、次の通りに行った。

- (1) 「でんでん太鼓に笙の笛」の「に」のように、同じ語句・形式であっても3・4級レベルの文例（『日本語能力試験出題基準』4級レベルには、場所・到達点・時間・目的・[期間]ニ[回数]の文例が示されている）とは違う用法で用いられているものは、3・4級レベルと見なさなかった。
- (2) 「行きましょう」「およいでる」などの口語的表現については、それぞれ「～ましょう」「～ている」で判定した。
- (3) 文語文法の活用、形式については、『日本語能力試験出題基準』及び『日本語文型辞典』に掲載されているもの（「やまぬ」「ならず」など）は中上級レベルとし、掲載されていないもの（「追いし」「なりて」など）は「文語文法を含む」ものとして別扱いとした。

4.2.2 文法・文型レベルによる分類結果

まず、4.1で語彙による分類で初級レベルに適した歌とした16曲（表2を参照）について、文法・文型のレベル判定を行ったところ、表6のような結果となった。

表6 初級レベル（語彙）の歌の文法・文型レベルによる分類結果

文法・文型のレベル	曲 名
4級レベルのみ	春が来た、むすんでひらいて、花一匁、うさぎ、かごめかごめ
3・4級レベルのみ	しゃぼん玉、七つの子、こいのぼり、ツキ、蝶々、開いた開いた
3・4級レベル以外を含む	赤い靴、ホーホー螢こい、雀の学校、鳩
文語文法を含む	一月一日

「赤い靴」については「(会う・見る)たび」,「ホーホー螢こい」については「(甘い・苦い)ぞ」,「雀の学校」については「ふりふり」,「鳩」については「(やる)ぞ」が3・4級レベル以外のものとして出現する。いずれも、一つの歌につき、3・4級レベルの範囲を超えるものは一つしか出ていないこと、そして、いずれもそれほど難易度が高くないと見られるため、この4曲については初級レベルとして分類してもよいであろう。「一月一日」については、中上級レベルのものと文語形式をそれぞれ二つずつ含むため、初級レベルからは外したほうが適当だと考えられる。

次に、4.1で中級レベルに適した歌として分類した17曲（表3を参照）については表7のような結果となった。

表7 中級レベル（語彙）の歌の文法・文型レベルによる分類結果

文法・文型のレベル	曲 名
4級レベルのみ	日の丸の旗、ゆりかごの歌
3・4級レベルのみ	青い目の人形、かもめの水兵さん、黄金虫、証城寺の狸囃子、かたつむり
3・4級レベル以外を含む	ふじの山、雪、靴が鳴る、春よ来い、春の小川、兎のダンス、江戸子守唄
文語文法を含む	通りゃんせ、浜辺の歌、さくら

4級レベルのみの歌と3・4級レベルのみの歌は中級レベルとして問題ないと言える（場合によっては初級レベルに入れることも考えられる）が、3・4級レベル以外を含む歌については、今後中級と上級を分ける基準を定めた上で、中級レベルとして適当かどうかを検討したい。また、「通りゃんせ」「浜辺の歌」「さくら」のように文語文法と関わる形式がある歌は上級レベル以上に設定するのが適当ではないかと考えている。

それから、4.1で上級レベルに適した歌として分類した11曲（表4を参照）と、超上級レベルとした歌12曲（表5を参照）については表8のような結果となった。

表8 上級レベル以上（語彙）の歌の文法・文型レベルによる分類結果

文法・文型のレベル	曲 名
3・4級レベルのみ	上級：村祭
3・4級レベル以外を含む	上級：背くらべ、うさぎとかめ、あめふり、紅葉、 ずいずいずっころばし、きんたろう、あんたがたどこさ 超上級：桃太郎、虫のこえ、ソーラン節
文語文法を含む	上級：故郷、螢の光、茶摘 超上級：君が代、あおげば尊し、はなさかじじい、こきりこ節、 浦島太郎、朧月夜、われは海の子、黒田節、箱根八里

表7の3・4級レベル以外を含む歌と同様、表8の3・4級レベル以外を含む歌についても、中級と上級を分ける適切な基準を定めた上で、分類していかなければならない。なお、文法・文型のレベルが4級レベルのみに該当する歌はなかった。

文法・文型レベルの分析はまだ十分ではないが、表6～表8を見ると、語彙レベルの難易度と文法・文型レベルの難易度はある程度連動していることがわかる。表6、表7、表8へと進むに従い、4級レベルのみ、3・4級レベルのみの曲数は減り、3・4級レベル以外、そして文語文法を含む曲数が増えていっている。

最後に、歌詞に使われる日本語の文法・文型の観点から見た特徴について、これまでに気づいた点を3点指摘しておきたい。第一に、語彙と同じく、「とぼそ(とぼそう)」「行っちゃった」「くらべりゃ」などの口語的表現が多用されること、第二に、です・ます体はほとんど用いられず普通形が主であること、第三に、一つの歌に同じ文型が何度も出てくるという特徴が挙げられる。第三の特徴について具体例を挙げると、「むすんでひらいて」は歌詞の中に出てくる述語はすべて動詞のテ形であり、他に「開いた開いた」は動詞のタ形、「蝶々」は動詞の命令形、「桃太郎」は動詞の「～ましょう」という形式が多く出てくる。⁽⁸⁾ これは、歌詞はメロディーにあわせて韻を踏むように作られることによるものであると思われる。

5 おわりに

今後は、中・上級学習者向けの歌について、文法・文型レベル判定の方法を再検討し、本稿で行った初級、中級、上級、超上級の四分類の見直しを行うとともに、各レベル内での日本語の難易度による順位付けあるいはグループ分けについて考察を進める予定である。それと同時に、Web教材化する際に、本稿で明らかになった歌詞の語彙、文法・文型の特徴をいかに反映させていくか、未習の語彙、文法・文型の説明をどのように行うのが独習教材として効果的かについても考えていく必要がある。

付記

本稿は平成14年度日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究(B))「日本語学習を支援するための音楽教材の開発」(課題番号14780159)による研究成果の一部である。

注

- (1) 国立国語研究所(1995)では、「娯楽的視聴(pleasure viewing)」について次のような説明がなされている。「これは読解指導における娯楽的読書(pleasure reading)に相当するものである。読解研究に明らかにされているように、学習者個人の興味およびレベルにあった本を大量に読むことは、その言語のオーセンティックなインプットを大量に得ることになるので、言語習得が促進される。同じことが映像による話し言葉のインプットについても言えるはずである。」(p.85) 筆者もこれと同様の見解で、歌のWeb教材の制作を行っている。
- (2) 男女別、出身都道府県別、年代別の中でもっとも知っている曲数に影響しているのが年代別である。「大きな古時計」と「花一匁」を除いた183曲中、1人当たりどのぐらいの曲数を知っているかについて、平均値を出したところ、男性(46人)100.0曲、女性(94人)104.9曲と男女での差はあまりなかったが、年代別では10代(17人)67.1曲、20代(40人)77.5曲、30代(26人)101.9曲、40代(16人)122.5曲、50代(21人)141.6曲、60代以上(20人)132.1曲と明らかに差が見られた。なお、都道府県別では、調査が富山県出身者に集中している(140人中61人)こともあり、比較は難しいが、「こきりこ節」「黒田節」のような民謡を除いては、それほど出身地域による違いはないように見られる。
- (3) 著作権法第四節第五十一条2 著作権は、この節に別段の定めがある場合を除き、著作者の死後(共同著作物にあつては、最終に志望した著作者の死後。次条第一項において同じ。)五十年を経過するまでの間、存続する。(社団法人著作権情報センター <http://www.cric.or.jp/>)
- (4) 『1万語語彙分類集』は、『日本語学力テスト』の作問用資料として作られたものである。

- (5) 「脚」は「足」,「唄」は「歌」,「中(うち)」は「内」,「お爺さん」は「お祖父さん」,「溪」は「谷」,「跳ぶ」は「飛ぶ」,「啼く」は「鳴く」,「畠」は「畑」,「眼」は「目」,「迷い子」は「迷子」,「路」は「道」でレベル判定を行った。
- (6) 『1万語語彙分類集』を作成するもととなった『日本語学力テスト』は、日本語能力試験の出題基準と比較すると、若干高めに設定されている。(『1万語語彙分類集』p.6)
- (7) 「あおげば尊し」「一月一日」「螢の光」「われは海の子」について、『日本唱歌集』には「あおげば尊し」は3番,「一月一日」は2番,「螢の光」は4番,「われは海の子」は7番までであるが、小学校の教科書では一部分しか取り上げていないこともあり、内容が難しいあるいは日本語学習用に不適切だと思われた部分は、削除することにした。「あおげば尊し」は1番と3番,「一月一日」は1番,「螢の光」は1番と2番,「われは海の子」は1番～3番のみをWeb教材に載せる予定である。また,「こきりこ節」「ソーラン節」といった民謡は、地域により少しずつ歌詞が異なっている。これらについては、複数の文献に掲載されている歌詞を取り上げることにした。よって、語彙の分析もWeb教材に載せる歌詞についてのみ行った。
- (8) 歌と日本語学習を関連づけた教材として、寺内(2001)『歌から学ぶ日本語』がある。文法・文型レベルに応じて歌を学べるCD付きテキストで、童謡、ポップス、演歌など様々なジャンル曲を21曲取り上げている。本稿で選定した曲と重なるものとして,「むすんでひらいて」と「しゃぼん玉」があり,「むすんでひらいて」は「動詞て形」,「しゃぼん玉」は「動詞た形」の練習用として扱われている。

参考文献

- (1) 足羽章(1984)『日本童謡唱歌全集』ドレミ楽譜出版社
- (2) 金田一春彦(1995)『童謡・唱歌の世界』教育出版株式会社
- (3) グループ・ジャマシイ(1998)『教師と学習者のための 日本語文型辞典』くろしお出版
- (4) 国際交流基金(2002)『日本語能力試験 出題基準 [改訂版]』凡人社
- (5) 国立国語研究所(1995)『日本語教育指導参考書21 視聴覚教育の基礎』大蔵省印刷局
- (6) 畑中良輔他(2002)『小学生の音楽』1～6, 文部科学省検定済教科書 小学校音楽科用, 教育芸術社
- (7) 畑中良輔他(2002)『中学生の音楽』1, 2-3上, 2-3下, 文部科学省検定済教科書 中学校音楽科用, 教育芸術社
- (8) 専門教育出版『日本語学力テスト』運営委員会(1998)『改訂 品詞別・A～Dレベル別 1万語語彙分類集』専門教育出版
- (9) 寺内弘子(2001)『歌から学ぶ日本語』アルク
- (10) 堀内敬三・井上武士(1991)『日本唱歌集』ワイド版岩波文庫54, 岩波書店
- (11) 松山祐士(2001)『簡易ピアノ伴奏による小学1・2年の音楽』ドレミ楽譜出版社
- (12) 松山祐士(2001)『簡易ピアノ伴奏による小学3・4年の音楽』ドレミ楽譜出版社
- (13) 松山祐士(2001)『簡易ピアノ伴奏による小学5・6年の音楽』ドレミ楽譜出版社
- (14) 松山祐士(2002)『簡易ピアノ伴奏による中学生の音楽』ドレミ楽譜出版社
- (15) 山越豊(1968)『日本の詩歌 別巻 日本歌唱集』中央公論社
- (16) 湯山昭他(2002)『新しい音楽』1～6, 文部科学省検定済教科書 小学校音楽科用, 東京書籍
- (17) 与田準一(1994)『日本童謡集』ワイド版岩波文庫136, 岩波書店